

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2023年5月26日
明治大学の所属学部・研究科	国際日本学部/国際日本学科(学部/学科/研究科/専攻等)
留学(渡航)した時の学年	2年生
帰国年月日	2023年5月23日
明治大学卒業予定年月	2025年3月
留学先大学について	
留学先国	アメリカ合衆国
留学先大学	南ユタ大学(日本語名) Southern Utah University(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/英語
留学期間	2022年8月～2023年4月
留学先大学で在籍した学年	1年生
留学先の所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名(日本語):人類学部 (現地言語での名称): Anthropology <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他: 州立
学年暦 記入例: 1 学期/4 月上旬～7 月下旬、 2 学期/9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 8 月下旬～12 月中旬 2 学期: 1 月上旬～4 月下旬 3 学期: ～ 4 学期: ～
学生数	6000 程
創立年	1897 年



留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (ドル)	日本円	備考
授業料		円	授業料免除型での留学のため無料
宿舍費	6000	800000 円	学内の寮の抽選に漏れてしまったため、学外の寮に住みました
食費	2500	300000 円	
図書費	0	円	学費に含まれています
学用品費	300	40000 円	教科書代
携帯・インターネット費	300	40000 円	Mint mobile を利用
現地交通費	100	13000 円	旅行先でのワーバードライブ代(☑大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		円	
被服費	200	26000 円	非常に寒い時期がほとんどを占めたため、ジャケットやスノーブーツなどの対策を含みます
医療費	0	0 円	病院に行く機会はありませんでした
保険費	2000	300000 円	形態:
渡航旅費	1200	160000 円	
ビザ申請費		30000 円	補足資料を詳細に用意しすぎたため高くなりました
雑費	300	40000 円	日用品など
その他		円	
その他		円	
合計	12700	1800000 円	

渡航関連	
渡航経路	
往路 出発地:羽田 目的地:ラスベガス 経由地:サンフランシスコ	
復路 出発地:ラスベガス 目的地:羽田 経由地:シアトル・ハワイ	
渡航費用	
① 往復チケットを購入した場合 航空会社: 料金:	
② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:ユナイテッド航空 料金:180000 円 復路 航空会社:デルタ航空 料金:150000 円 ∴合計:330000 円	
航空券購入方法	
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:) <input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名:それぞれの航空会社のサイトを使用) <input type="checkbox"/> その他()	

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

 学生寮(寮の名前:) アパート ホームステイ

2)部屋の形態

 個室 相部屋(同居人数)

3)共有部分

 バス トイレ キッチン(自炊可 自炊不可)

4)住居を探した方法:

大学から紹介されました。

5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

私は学内の寮の抽選に外れてしまいました。抽選の前に既に申し込み人数が入居可能人数を超過していたため、1学期間の短い留学期間の生徒が優先されていました。そのためこれから留学される方にもそのような対応が予想されるため注意してください。(あらかじめ学外のアパートを選んでおくことを推奨いたします。しかしその場合学内の寮の抽選結果が発表される前に学外の寮のデポジットを請求される場合も多く注意が必要です。)

現地情報

1)留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院、学内の診療所)

 なし
 あり(治療を受けた場所:)

2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例:留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

 なし
 あり(問題の内容や相談した人等:)

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?

渡航前から調べるにしてもシダーシティは本当にマイナーな田舎のため、情報がインターネット上にほとんどなく少し不安でした(グーグルアースは場所により数年更新無し)が、実際に過ごしてみて、シダーシティには治安面で心配なことは何もないと感じました。油断は禁物ですが、夜中の12時に降に女子生徒だけでキャンパスを移動する人も珍しくなく、図書館を5時間以上留守にする場合もパソコンを置いていく人がほとんどでした。体感として日本より更に安全だと感じました。また、街のほとんどを南ユタ大学の生徒が占めるため、人が非常に少なく、モルモン教というユタ州独特の宗教のおかげでアルコールを飲む人すらいないに等しいため非常にユニークな街でした。

4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWiFi接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

学校から支給された Mint モバイル の SIM カード を入れて使いましたが、Wi-Fi が繋がらない場所ではデータが繋がりにくい事もありました。しかし全体的に特に問題はありませんでした。(留学期間中に2度学校内のWi-Fiに不具合が起こったことがあり、その際は自宅で勉強することにより対応しました。)

5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

万が一クレジットカードが使用拒否された場合に備え、2つのカードを準備して渡航しました。渡航先で友人と旅行に行ったことをきっかけに Wells Fargo の口座を開設しましたが、非常に便利であったため、おすすめいたします。

6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えて下さい。

小さな街ですのでターゲットなどの大型スーパーはありませんが、車があればウォールマートに簡単にいける上、1時間程度運転するとセントジョージという街に行くことが出来、そこにはターゲットを始めショッピングモールなども揃っています。シャトルバスを使うと4時間ほどかかってしまいますが、車を使うと2時間半程度でラスベガスに行くことも可能です。

7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1)留学先で取得した単位数合計		本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
単位		<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限		
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input checked="" type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 履修の制限があった:		
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4用紙で別途作成し、添付してください。		
履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):
Communication in Human Interaction		
科目設置学部・研究科		
履修期間	2022 秋学期	
単位数	3	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1週間に 75 分が 2 回	
担当教授	Melissa Funk	
授業内容	会話だけでなく、人間関係や問題、状況についてを理解し、それらにどのように対処すれば良いかを考える学問です。このコースは、人間の相互作用を記述的だけでなく、分析的な観点からも研究することを目的としています。	
試験・課題など	テストの回数は年度によって異なるようですが、主にネット上で時間をゆっくりかけて解ける上、今までのメモを見ていいという形式でした。テスト直前の授業では、テスト内容について詳細な解説をしてくれるなど太っ腹でした。	
感想を自由記入	教授が非常に気さくで、質問に対しても丁寧に対応してくれました。また、南ユタ大学では珍しい、真面目な授業進行を行う教授であるため、多少座学らしい内容ではありましたが。	



履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Global Communication & Culture			
科目設置学部・研究科			
履修期間	2023 年春学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 75 分が2回		
担当教授	Kyle Thompson		
授業内容	国や地域ごとの文化や風習等をコミュニケーションの観点から学び、グローバルなコミュニケーションに必要な不可欠なマインドセットを学ぶ授業でした。		
試験・課題など	必ず隣の席に座ったクラスメートとペアになり授業が進んでいく。テストは 2 回あり、どちらも記述が大半を占める。中でも長文を書かなければいけない設問があり、時間配分が大変でした。課題は、お題に当てはまる人物にインタビューをする形式のものが頻繁に出され、非常にユニークでした。		
感想を自由記入	個人的にSUUで会った教授の中で、当授業の担当教授の人柄が最も良かったと思います。授業名にグローバルとあるように、私の他にも留学生がコンゴ共和国、フランス、ドイツから来ていて、彼らの立場から彼らの住む地域の話聞いたことは良い経験になりました。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Human Development through the Life span			
科目設置学部・研究科			
履修期間	2022 秋		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式 (チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 50 分が3回		
担当教授	Clint Broadbent		
授業内容	人の一生について幼児期から老年期まで詳細に学んでいく。実際に自分に起きたこと、これから起こることの振り返り、発表を通じて考えを深め、生物学的用語も学びました。		
試験・課題など	テストは数章が終わった後にテストセンターで行われ、選択問題のみで構成されていたものの、難易度は高く、事前に授業内でできた友人と共に勉強することをおすすめします。		
感想を自由記入	大人気の教授の授業であることから、履修登録の際ははずれてしまう可能性を考えておく必要があります。教授の話し方に癖があり、最後まで慣れずに苦勞しました。そしてグループワークがありますが、メンバー次第では全員が授業や練習に来ず、1 人ですべてをやる必要がある班もありました。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Marriage and Family Relations			
科目設置学部・研究科			
履修期間	2022 秋		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 50 分が 3 回		
担当教授	Jim Mock		
授業内容	結婚と家族について、コミュニケーションや心理などから細かく分析していく。授業内容に好みがかかれそうであるため、事前に調べておく必要があります。		
試験・課題など	試験は基本的にテストセンターで行われ、難易度は難しくありません。(毎週オンラインで軽く知識のチェックがあり、本番のテストもほとんどその範囲から出るため。)		
感想を自由記入	結婚と家族についてという授業内容が、さすがモルモン教の州であるだけあるなと思いました。生徒はほとんど全員が女性で、たまに子供連れの方もいて、家族について学びに来たとおっしゃっていました。日本で受けることが出来ない授業であるため、貴重ではあるが、個人的にあまりおすすめの授業ではありません。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Introduction to Diversity			
科目設置学部・研究科			
履修期間	2023 春		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 50 分が 3 回		
担当教授	Kholoud AL-Qubbaj		
授業内容	世界各国の宗教、文化、風習、ダンス、言語、料理などの特色や性格をビデオを見たりプレゼン発表を聞いたりしながら実践的に学ぶ。		
試験・課題など	課題は 2 回のプレゼンテーションに対する下調べや複数のレポートです。レポートは 5 つ出され、4 つはそこまでページ数が多いわけではありませんが、5 つ目は分量が多い為要注意です。期末課題ですが、いつでも提出することが出来るので、最後まで溜めずに計画的に行うことを推奨します。		
感想を自由記入	イスラム圏出身の珍しい教授の授業でしたが、現地の学生からはいわゆる「楽単」という噂が広まっていたせいで、意欲の無い学生が多い印象を受けました。しかしプレゼンテーションはグループで行うので、メンバーが重要になるため注意が必要です。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Introduction to Sociology			
科目設置学部・研究科			
履修期間	2022 秋		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 50 分が 3 回		
担当教授	Michael Ostrowsky		
授業内容	社会構造、集団や社会的組織、信条、経済、人種、ジェンダーなどの観点から社会を見つめ、パターン化していく。用語を覚えながら進んでいく。		
試験・課題など	試験の日程は最初の授業で配られるシラバスに載っています。教科書を基に作られるテストのため、教科書を完璧に勉強すれば高得点が望めます。		
感想を自由記入	教科書を本当にしっかりと読む授業でした。基本的に予習の段階で 40 ページほどのリーディングとその内容が把握が求められるため、難易度が高いです。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Race & Ethnic Relations			
科目設置学部・研究科			
履修期間	2023 春		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に75分が2回		
担当教授	Daneka Souberbielle		
授業内容	社会問題(主にアメリカのもの)を、人種やエスニシティの観点から扱った内容。非常に難易度が高いです。		
試験・課題など	複数回レポートの提出がまとめられ、プレゼンの機会もありました。		
感想を自由記入	留学先で履修した授業の中で最も難易度の高い授業でした。軽い社会問題を扱うのではなく、奴隷時代や人種についての内容がほとんどで、教授もあらかじめ「きつい内容の授業でも精神が落ち込まないと自信のある方には受けてほしい」と初回で断っていました。		



履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Acculturation			
科目設置学部・研究科			
履修期間	2022 秋		
単位数	2		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 50 分が 2 回		
担当教授	Alex Curtis		
授業内容	留学生限定の授業であり、シダーシティでの暮らし方はもちろん、ホームシックや疎外感への対処法、ルームメイトとの暮らし方などの細かいところも教えていただくことが出来ました。		
試験・課題など	ビデオ課題が数回、そして学期末にシダーシティでの生活をまとめたビデオ作製をこなす必要がありました。また、学内のイベントに参加し、自分だけドパスポに写真とコメントと共にまとめるといった課題は、学生生活に慣れる為に非常に有益でした。		
感想を自由記入	単位取得や、良い成績の為に受ける授業ではなく、アメリカ合衆国やシダーシティについて学ぶといった取り組み方です。この授業中に会ったエクアドルの友人とは、スキーやハイキングに出掛けたり、休日はいつも共に過ごす間柄となり、今でも交友を続け大切な親友として連絡を頻繁に取り合っています。教授とも距離が近く、学びの多い授業でした。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Introduction to Women and Gender Study			
科目設置学部・研究科			
履修期間	2023 春		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に50分が3回		
担当教授	Laura June Davis		
授業内容	主に女性の社会的立ち位置、ジェンダー問題、性的マイノリティー、人種的マイノリティーについてディスカッションを通じて学ぶ。		
試験・課題など	非常に多い。ディスカッションリーダーといい、教授に代わって授業を行う機会が 2 回あり、映画を 4 作品見てそれぞれ 1000 字ほどの感想や知見を書き、そのほかにもポスターなどの重い課題が多数あった。		
感想を自由記入	単にジェンダーに興味があるからという理由だけで履修してはいけないと思うほど課題が多かったことが特徴でした。しかし膨大な課題を友人と分担して行うことによって、他の授業よりも友人と親くなるペースが速かったと感じます。		

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など

3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)
※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

未定

4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)

※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

帰国後は就職活動が本格化するため準備が必要と感じました。

5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。



留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、
期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	
	4月～7月	入学
	8月～9月	英語の必修の授業に力を入れて取り組む
	10月～12月	
留学開始年	1月～3月	留学先の決定 滞在先の検討
	4月～7月	ビザ面接は6月の下旬 航空券は7月に取得 予防接種証明書等の収集
	8月～9月	8月末から留学開始
	10月～12月	サンクスギビングやスクリーム(ハロウィンのイベント)や期末試験を経て冬休み
留学/帰国年	1月～3月	春学期授業の開始
	4月～7月	留学終了 帰国
	8月～9月	
	10月～12月	



留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイスなど、自由に記入してください。

まずアメリカ合衆国を留学先を選んだ理由として、圧倒的な国籍の多様性が挙げられます。言語習得のためだけに留学に行ったわけでは無く、積極的な異文化交流を期待して留学を志した私の場合は、留学先の国に沢山の留学生がいるかどうか、また留学生が多く集まる授業が充実しているかがポイントでした。ユタ州は、人種の多様性としては他の州よりも低いと言えますが、大学では 50 か国からの留学生との交流ができる上、留学生限定の学内イベントも多数開催されていて、交流が図りやすいという特徴がありました。

南ユタ大学を選んだ理由は大きく分けて2つあります、1 点目はその素朴さです。実際に留学を志す方の中でもアメリカに対して少し怖いイメージを持っている方もいらっしゃいましたし、私もそのようなイメージを持っていて、もう少し素朴な国を選ぼうかと考えたこともありました。しかし留学先の国を選ぶ前に是非おすすめしたいのは、留学先大学の位置する街について調べることです。私の場合はユタ州のシダーシティー付近に旅行の経験がある友人がいたため、よく話を聞いていました。そこで分かったのは、ユタ州にはモルモン教という非常に独特な宗教があり、そのおかげでバーや酒場がほとんど無く、薬物に対する取り締まりが非常に厳しいということです。この宗教についてネット記事でオカルト風に紹介されていることもありますが、私達留学生にとっては結果的に非常に都合の良い宗教でした。とにかくシダーシティーは人が少なく治安が良い事の特徴としていますが、これはこの宗教の影響であると言えます。周りは山に囲まれ、大きなショッピングモールや娯楽施設などはほとんど無く、派手に遊ぶ人もいませんでした。理由の 2 点目は、その物価の安さです。特にシダーシティーは観光地ではないため、食品やその他日用品の価格設定が、地元の人々に向けて行われていると感じました。実際に LA やシアトルなどに比べ、物価が非常に低いと体感しました。街に多くあるレストランは、もちろん円で考えると高級ですが、アメリカ国内ではやさしい値段設定であったと言えます。このように、国に対するイメージとその中にある各地域ではズレがある場合が多く、調べてみるといいと感じました。そして皆さんが恐らく気にしているであろう「アジア人差別」についてですが、閉鎖的な田舎に留学した私でも特に経験したことはありませんでした。しかし人種に関して大きなステレオタイプが存在すると感じたことも多く、実際に他国から来た留学生として良い意味でも悪い意味でも別の世界の人であるという認識を持たれている感じは見受けられました。

ユタ州は、アメリカ合衆国らしさが無い州です。これは人によって良くも悪くもあります。しかし、安全な環境で強固な人間関係を築き、マイペースに自身と向き合う時間はかけがえのないものとなりました。都会でスリリングな体験をすることはできませんでしたが、LA やシアトルを短期間訪れた際に差異を実感し、州ごとの特性を知ることが出来ました。

母国語以外で話すとおブラートに包むことが出来ないため、本当の友人が出来ます。実際に私にも、帰国後もこれから一生続く友情になると確信する程の素晴らしい出会いが沢山ありました。留学前の手続きは不安も多い上複雑で大変ですが、一度渡航してしまえばそのような手続きをする機会はほとんどありません。辛くてもどうか頑張って、一度渡航してみてください。楽観的すぎることはよくありませんが、実際に過ごす中でどうにもならないことは 1 つも起きませんでした。皆さんが留学後に晴れ晴れとした気持ちを味わうことができることを祈っています。